



1. 使用薬剤

- ◇ はじめにふじの結実状況を十分に確認してください。極端に着果量が不足している場合は、薬剤摘果は行わないようにしてください。
- ◇ 効果発現を高めるため、基本的には単剤で散布してください。

水	100 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$	500 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$	
アプローチ B I （333 倍）	300ml	1500ml	* 注意事項①
ミクロデナポン水和剤（1200 倍）	83g	415g	* 注意事項②
散布量：500 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$ / 10 a * 注意事項③、④、⑤			

～ 散布時の注意事項 ～

- ① 展着剤アプローチ BI に代えて、ニーズ 1000 倍でも良い。
- ② ミクロデナポン水和剤 85 は、医薬用外劇物です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ③ ミクロデナポン（水）は果皮、果柄や果台から発生した新梢（葉）から多く吸収される。よって、果実及び花そう葉に十分かかるように散布する。
- ④ 散布量が少ないと効果が落ちる場合があるので、多めに設定する。
- ⑤ 焼酎（20%）1000 倍加用すると効果があがる?!

単価

ミクロデナポン水和剤	@1,285 円（500g 規格）
アプローチ BI	@1,007 円（500ml 規格）
ニーズ	@1,197 円（500ml 規格）

薬剤費

ミクロデナポン水和剤	@1,067 円 / 500 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$
アプローチ BI	@3,021 円 / 500 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$
ニーズ	@1,197 円 / 500 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$

2. 散布前後の気象条件

- 散布後 1 日は降雨がない日を選ぶ。
- 散布前後に雨が降り、適度な程度の湿度が確保され、かつ最高気温が高いなどの条件下で効果が高い。(散布後数日の最高気温が 15℃以下であると効果が発現しにくい)
- 過剰落果の恐れがあるので、散布直後に雨が降っても再散布はしないこと。
- 強風時の散布は避け、散布する場合は周辺への飛散に注意すること。

3. 散布適期

- 目通り中心果の横経が 10～12mm 程度の時 を目安。(参考：青森県では 6～7mm が目安)
- 中心果の測定位置：目通りの高さ
- ふじは生理落果の少ない品種なので最も落果の多くなるタイミングで散布する。
- この時期の果実は 0.5～0.7mm 程度 1 日肥大する。(10 日間で約 5 mm～7mm 伸びる)

4. 散布時期

- 満開後、概ね 14～21 日程度で横経 10～12 mm となる。
- ふじ満開日 (目安)

◇ 南部地区：小田中 4/23、草間 4/23、間山 4/23

◇ 平岡地区：若宮 4/23、田麦山 4/24、田麦沖 4/25

◇ 高社地区：越 4/24、赤岩 4/24、柳沢 4/24、岩井 4/25

- 散布時期目安

下記は概ねの目安となりますので、各園の生育状況を良く確認してください。



満開日	14日後		16日後		21日後
4月23日	5月7日	～	5月9日	～	5月14日
4月24日	5月8日	～	5月10日	～	5月15日
4月25日	5月9日	～	5月11日	～	5月16日
4月26日	5月10日	～	5月12日	～	5月17日
4月27日	5月11日	～	5月13日	～	5月18日
4月28日	5月12日	～	5月14日	～	5月19日

5. ふじ以外の品種の使用方法

- ① つがる・秋映は過剰落果の可能性があるので、薬剤摘果は行わない。混植してある場合は、極力飛散しないように注意する。
- ② シナノスイート・シナノゴールドの成木に使用する場合は、ふじで使用するのと同様、果実及び果そう葉によく付着するように散布する。
- ③ 地帯によっては、品種間で満開日の差があるので、各園の状況をよく考慮して散布を計画する。
- ④ シナノスイート・シナノゴールドの登録内容は下記のとおりである。

使用目的	対象果樹	使用薬剤	使用方法
摘果	シナノスイート シナノゴールド	ミクロデナポン水和剤 85 (NAC 85.0%)	使用倍率：1,200 倍 展着剤：アプローチ BI 333 倍使用 散布時期：満開後 2～3 週間後

*農薬の登録は、適宜更新されています。最新の登録情報を確認し、適正に使用してください。また、販売メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、購入時、使用時には農薬のラベルを必ず確認してください。

6. 薬剤摘果実施後の対応

- ① 散布後 1～2 週間で落果するものと残るものの区別がつくようになるので、散布 2 週間後頃から摘果作業に入る。
- ② 効果の発現は、側果への養分転流が停止するため、軸部が黄化する。その後、自然落果するので、摘果の必要はない。
- ③ 散布 2 週間後になっても、効果が発現しない場合は、状況を確認しながら早めに予備摘果作業を進める。

7. りんご 5 月中下旬の薬剤散布について

散布時期：5/15～22 頃

＊散布時期は目安となります。各園の生育状況を良く確認してから散布してください。

散布薬剤：水 1 0 0 ℓ

展着剤 1 0 ml

フルーツセイバー 5 0 ml（前日、3 回）

モスピラン顆粒水溶剤 2 5 g（前日、3 回）

スイカル 1 0 0 g（カルシウム剤）

対象病虫害：黒星病・黒点病・赤星病・うどんこ病

アブラムシ類・カイガラムシ類・リンゴワタムシ・カメムシ類、（ケムシ類）

10 アール当り散布量：500 ℓ

【注意事項】＊良くお読みください。

- ① 上記の散布時期は目安です。気象条件や各園の病虫害発生状況等を考慮して散布時期を決定してください。
- ② 6 月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避けること。
- ③ フルーツセイバーに代えて、アントラコール顆粒水和剤 500 倍（45 日前、4 回）でもよい。
- ④ カルシウム剤のスイカルは、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので加用する。今回から 5～6 回加用する。
- ⑤ スイカルに代えて、ストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。ストピットⅡは、カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。

◆ 今後の防除日目安

- 5/15～22 頃（フルーツセイバー ＋ モスピラン）＊前回 12 日後
- 6/1～5 頃（アントラコール ＋ スプラサイド）＊前回 15 日後
- 6/15～20 頃（キノンドー ＋ オーソサイド ＋ オリオン）＊前回 15 日後

6 月以降は、概ね 15 日間隔で散布を進めてください。梅雨期間は、炭そ病・輪紋病の感染が最も拡大します。散布量は常に多めに設定し、死角がないように丁寧に散布してください。

8. 結実後の技術対策について

◆ 結実後の技術対策

- ① 満開後約3週間位（5/15過ぎ）で結実量や幼果のサビ等が十分確認できます。生育の進んでいる本年は、5月20日頃を目安に予備摘果作業に入ってください。
- ② ふじで結実量が極端に不足している場合は、予備摘果時期を遅らせ、変形果やサビ果（果面の50%位まで）等の素質の悪い果実でも残し、樹勢の安定化を図ってください。
- ③ 低温被害が大きい園（地帯）では、側果を利用できるふじから優先的に予備摘果を進めてください。
- ④ つがるや秋映等の品種で、低温被害が見られる場合は、極端な一輪摘果を控え、まずは結実状況やサビ果の発生状況を確認してください。また、中心果の欠落が著しい場合は、素質の良い側果を利用して生産量の確保に努めてください。
- ⑤ 結実不良園では、早期の徒長枝切除は当面控えてください。また、梅雨明け頃に過繁茂状態になる場合は、適宜管理作業を進めてください。
- ⑥ 養分転換期の5月中旬になっても、展葉枚数が少なく、葉色が悪く小さい葉が多く見られる場合は、追肥や葉面散布を実施してください。（詳細は下記参照）

◆ 5月の葉面散布資材使用例

資材名	目的	倍率	使用時期	規格	1000散布単価
ようゆう 葉友	光合成促進	2,000倍	落果後～収穫直前	1ℓ	201円
				4ℓ	193円
ビビッドグリーン	葉色、健全葉維持	500倍	落果後～6月中旬頃	1.2kg	233円
液体硫酸マンガン	マンガン欠乏対策	200倍	落果後～6月中旬頃	1kg	511円
グリーンデイズ	苦土欠乏対策 微量要素補給	1,000倍	落果後～6月中旬	1kg	149円

*N-窒素、P-リン酸、K-カリ、Mg-苦土、Mn-マンガン、B-ホウ素

【ふじの青玉果除去対策】

昨秋の高温の影響で、果台が2cm以上伸長したものが本年も多く見られます。この長い果台に結実した果実は、収穫時に青玉果（光玉）になることが多い傾向です。よって、摘果時に極力除去するようにしましょう。

詳しくは6月中下旬の現地講習会で対策を講じますのでご参加ください。

